クリ幼木の凍害は「株ゆるめ」処理で防ごう!!

クリは２～４年生の幼木が特に凍害を受けやすい。凍害発生を抑制する技術の一つとして、改良型の油圧ショベルで軽く幼木株を持ち上げ、軽い断根と土壌中に孔隙を作る「株ゆるめ」処理を開発した。

内　容

技術は油圧ショベルのバケットに削岩機のスチール（先端部）を取り付けた「フォーク型バケット」（写真１）を用い、幼木株を10cm程度、やさしく持ち上げることで、軽い断根と株周辺の土壌に亀裂を作り、物理的に根からの吸水を防ぐ技術で、11月頃に処理する。その結果、樹体内の水分を早期に減らし、糖含量を高めることで、耐凍性が高まる。あわせて土壌の深耕効果による樹勢改善が期待できる。

具体的な処理の方法としては、

（１）幼木の株元の草を刈り、枝の伸び等樹勢を見て、根の張っている位置を想定する（写真２）。

（２）樹の状況に合わせ株元から50～60cm離れたところから約60度でフォークを差し込み（写真３、４）、フォーク先端が株直下にきたところで、軽く10cm程度持ち上げる（写真５）。

（３）株を元に戻し、差し込み時と逆にバケットを滑らすよう静かに戻す（写真６）。

普及上の注意事項

植栽条件（平地植えや高盛・高畝）、土壌条件でも根の張りが変わるので、樹の状況に応じた対応を心がける。

また「ブレーカー専用アタッチメント（特許第5994085号）」を用いると樹高が高くても対応が可能である。

織邊　太（農産園芸部）
（問い合わせ先　電話：0790－47－2424）

写真１　フォーク型バケット

写真２　根の張りを想定

写真３　約 60 度に差し込む

写真４　株下まで差し込む

写真５　約 10 cm持ち上げ

写真６　土壌に亀裂発生